

第22回 手術の未来

2025.1.21 四 18:00 - 20:00

外科医と企業の連携によるイノベーションをめざして

リンパ浮腫は、がん治療手術や放射線治療、外傷などにより四肢のリンパ回収ルートが損傷を受けることで、リンパ液が流れにくくなり生じる不可逆的な浮腫です。発症初期に保存療法（圧迫療法やリンパドレナージ）やリンパ管静脈吻合術を行うことで、重症化を防ぐことができます。

しかし、進行した重症例では皮下組織やリンパ管が著しくダメージを受け、リンパ液の回収効率が大幅に低下します。その結果、四肢の太さが増大し、皮膚が厚くなるなどの症状が現れ、象皮症（象の足のような肥大した状態）を引き起こすこともあります。こうした重症例に対しては、肥大した組織を最小限に切除しながら形態を整え、同時にリンパ液回収機能を再建することが求められます。リンパ節移植や圧迫療法を組み合わせることで、進行した病態に対する治療を可能にする戦略が注目されています。本講演では、演者が取り組んできた「Reshaping（再形成）」の方法と、その具体的な工夫についてご紹介します。

本研究会の光嶋 勲会長（広島大学病院 形成外科 教授）からは、招待講演に関連する最新知見、世界の動向をご紹介します。講演後、登壇者とのパネルディスカッションは好評で、Q&Aを通して登壇者と対話ができる活気あふれるオンライン講演会です。ぜひご視聴ください。

企業の皆様、本研究会は次世代のスーパーマイクロサージャリー実現に向けて医の巨匠と企業とのコラボレーション創出を推進しています。医療イノベーションを志す企業の皆様は、ぜひこの機会に講演会へご参加ください。ご登壇いただいた医師とのご面談を希望の企業の皆様へ面談支援も実施しております。お気軽にご相談ください。



オープニング講演

スーパーマイクロサージャリー最新の知見 ②②
— クリップペルトレノーネイ症候群の外科的治療 —光嶋 勲 氏 広島大学病院 形成外科 科長
国際リンパ浮腫 治療センター 寄附講座 教授

招待講演

象皮症のシルエットを整える：マイクロサージャリーと
マクロサージャリーの絶妙なバランス大西 文夫 氏 埼玉医科大学総合医療センター 形成外科・美容外科
教授

1998年 慶應義塾大学医学部 卒業
1998年 慶應義塾大学医学部形成外科学
2007年 栃木県立がんセンター 形成外科
2012年 埼玉医科大学総合医療センター 形成外科・美容外科
2019年 Department of Plastic, Reconstructive and Aesthetic Surgery, Singapore General Hospital, Singapore; clinical fellow
2020年 埼玉医科大学総合医療センター 形成外科・美容外科 准教授
2023年 埼玉医科大学総合医療センター 形成外科・美容外科 教授

▼資格等
医学博士（慶應義塾大学）、日本形成外科学会専門医、日本形成外科学会再建・マイクロサージャリー分野指導医。

◆ 参加費とお申込み : <https://cpk.jp/reg/2>

参加費：企業・公共機関など団体様は、1人15,000円、2人28,000円、3人40,000円
※お得な回数チケットもございます。事務局へお問合せください。

* 医療従事者、アカデミア、学生（社会人学生を除く）は無料です。

◆ 事務局：一般社団法人みらいメドテック | E-mail : info@ikou-funding.com | <https://ikou-funding.com>